

第72回景気動向調査 (2021年下半年)

マレーシア日本人商工会議所(JACTIM)
2021年10月

注1: JACTIM会員企業552社に、2021年9月1日～9月30日にかけて、2021年下半年の景気動向を中心に質問した内容について集計している。191社(内訳: 製造業120社・62.8%、非製造業71社・37.2%)から回答を得た。回答率は34.6%となる。

注2: Web上での調査票配布・回収を行っている。

注3: マレーシア日本人商工会議所(JACTIM)では、年に2回(上半期と下半期)にJACTIM会員企業に景気動向調査を実施している。

2021年下半期の景気動向【要旨】

- 業況判断DIは▲20.4ポイントと前期から8.6ポイント下落するも、コロナ前と同等水準は維持。2022年上期は+3.1ポイントと改善を予測。
- 従業員数DIは▲15.2ポイントと、前回より不足傾向が強まる。
- 業界の需給判断DIは+15.7ポイントと、需要超過が鮮明化。
- マレーシア国内のコロナの状況、政府規制の変動等に各社注視。

(1)業況判断DI、COVID-19前と同等水準は維持

大きく持ち直した前期(▲11.8ポイント)から8.6ポイント下落し、▲20.4の結果。7期連続でマイナスとなったが、COVID-19前を上回る水準は維持。長期間の行動規制による経済低迷や操業率低下を要因とする声が多かった。来期は+3.1への改善を予測。

(2)従業員数DIは、不足傾向が継続

3期ぶりに不足に転じた前回(▲1.8ポイント)からさらに13.4ポイント下落し▲15.2の結果。来期予測値も▲20.4ポイントと、労働力等の不足傾向が続く見込み。

(3)業界の需給判断DIは、需要超過が鮮明化

2020年下期▲34.8ポイントを底に、2021年上期▲1.4ポイント、2021年下期+15.7ポイントと上昇傾向。来期は1.1ポイントの小幅増予測と上昇に一服は見込まれるも、需要超過状態が継続される見込み。

(4)業績に影響を与える要因、6割強が規制変動を指摘

従来一定の回答割合を有していた米中貿易摩擦の影響等が減少する一方、回答企業のうち9割がCOVID-19による影響をあげる。また新設置項目であるマレーシアの規制変動による影響も、回答企業のうち66.5%が次点としてあげていることから、規制対応も企業活動面で影響を与えていると考えられる。

業況判断DIの推移

期間	回答社数	①良い		②かわらない		③悪い		DI値 (P)
		社	%	社	%	社	%	
19年上期	285	43	15.1	145	50.9	97	34.0	-18.9
19年下期	291	39	13.4	126	43.3	126	43.3	-29.9
20年上期	160	21	13.1	72	45.0	67	41.9	-28.8
20年下期	178	17	9.6	41	23.0	120	67.4	-57.9
21年上期	221	53	24.0	89	40.3	79	35.7	-11.8
21年下期	191	50	26.2	52	27.2	89	46.6	-20.4
22年上期予測*	191	66	34.6	65	34.0	60	31.4	3.1

従業員数DIの推移

期間	回答社数	①過剰		②適正		③不足		DI値 (P)
		社	%	社	%	社	%	
19年上期	283	35	12.4	208	73.5	40	14.1	-1.8
19年下期	287	53	18.5	191	66.6	49	17.1	1.4
20年上期	160	30	18.8	112	70.0	18	11.3	7.5
20年下期	178	50	28.1	119	66.9	9	5.1	23.0
21年上期	221	29	13.1	159	71.9	33	14.9	-1.8
21年下期	191	22	11.5	118	61.8	51	26.7	-15.2
22年上期予測*	191	20	10.5	112	58.6	59	30.9	-20.4

需給判断DIの推移

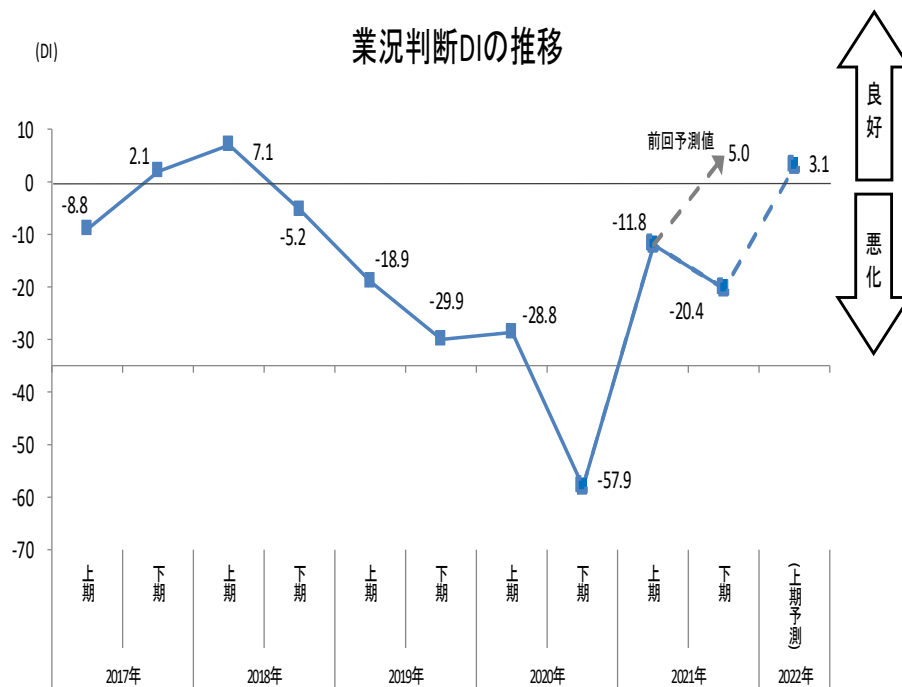
期間	回答社数	①需要超過		②均衡		③供給超過		DI値 (P)
		社	%	社	%	社	%	
19年上期	270	16	5.9	170	63.0	84	31.1	-25.2
19年下期	269	11	4.1	158	58.7	100	37.2	-33.1
20年上期	160	10	6.3	95	59.4	55	34.4	-28.1
20年下期	178	12	6.7	92	51.7	74	41.6	-34.8
21年上期	221	46	20.8	126	57.0	49	22.2	-1.4
21年下期	191	63	33.0	95	49.7	33	17.3	15.7
22年上期予測*	191	60	31.4	103	53.9	28	14.7	16.8

注: 各DI値 = (「①」とした企業数 - 「③」とした企業数) / (回答企業数) × 100

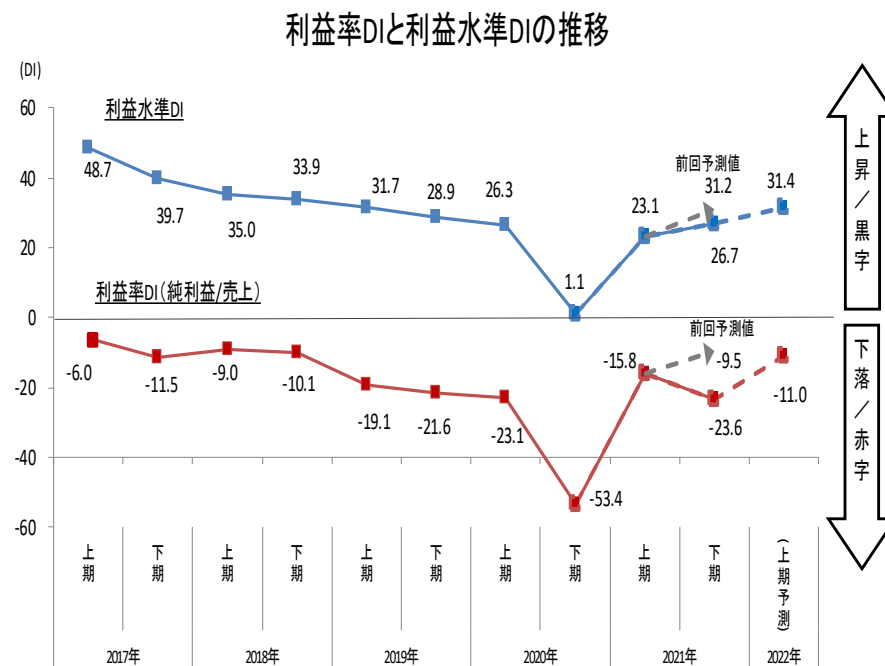
*2021年下半期アンケートでの2022年上半期の予測についての設問に対する回答

1. 2021年下半期の景況(業況、利益状況)

- 業況判断DIは▲20.4ポイントと、大きく持ち直した前期から8.6ポイントの下落。前回の回復予測にも反し7期連続でマイナスとなったが、COVID-19前と同等水準は維持。来期は+3.1ポイントとプラスへの改善を予測。長期間の行動規制による経済低迷、操業率低下を要因とする声が多かった。
- 利益水準DIは前回予測を若干下回るも概ね横這い。利益率DIは▲23.6で前回上昇予測に反し前期より7.8ポイントの下落。来期は共に上昇を予測。



注: 業況判断DI = (「よい」とした企業数 - 「悪い」とした企業数) / (回答企業数) * 100

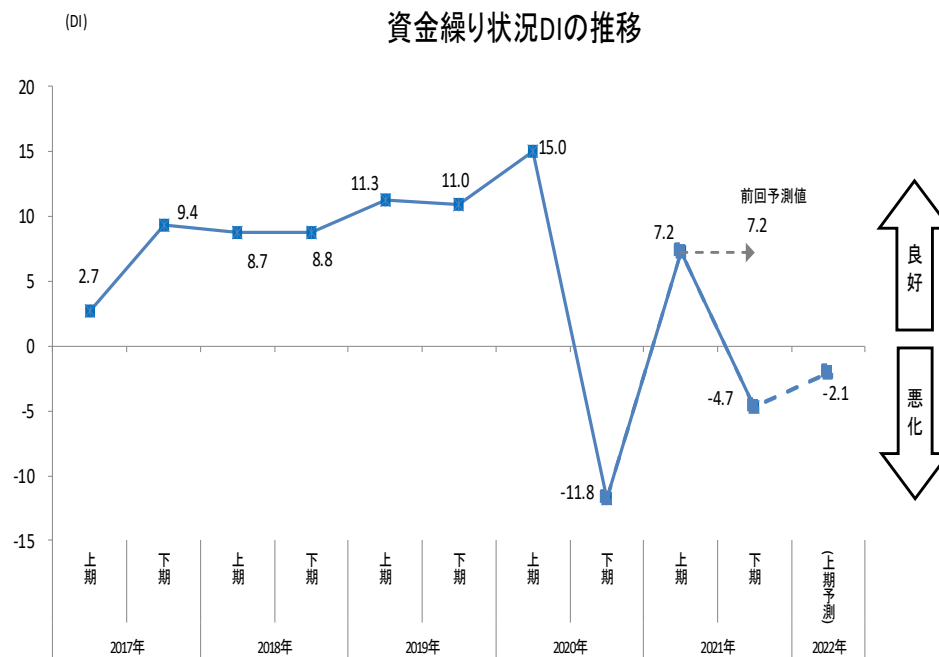


注(1): 利益率DI = (「上昇」とした企業数 - 「下落」とした企業数) / (回答企業数) * 100

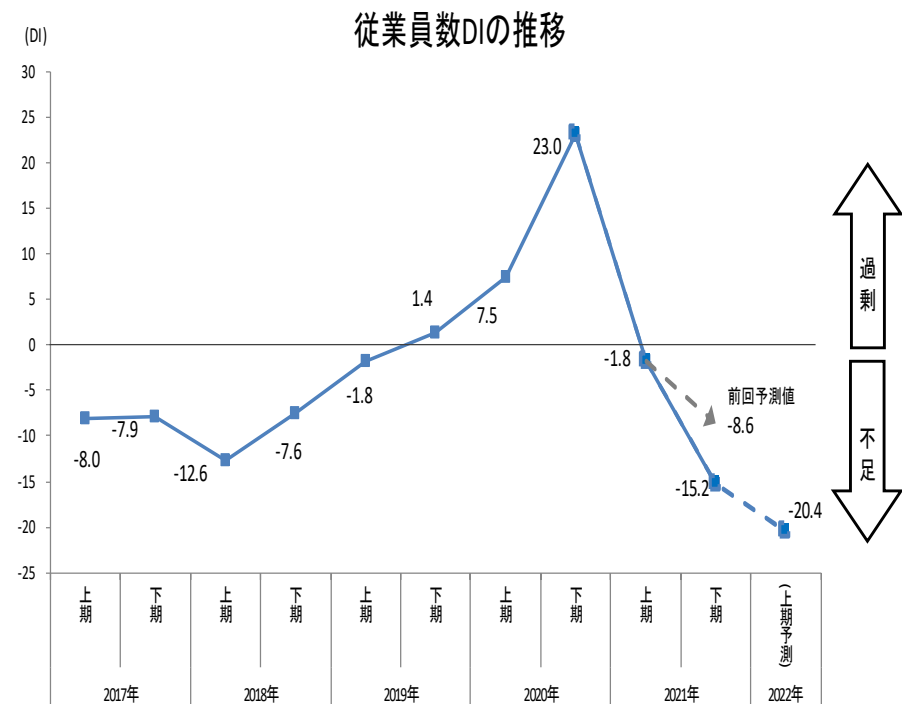
注(2): 利益水準DI = (「黒字」とした企業数 - 「赤字」とした企業数) / (回答企業数) * 100

2. 2021年下半期の景況(資金繰り、従業員数)

- 資金繰り状況DIは前回の大幅改善から反落し、11.9ポイント下落の▲4.7ポイント。前回横這い予測にも反し、再びマイナスに転じた。来期は若干の改善予測ながら引き続きマイナスの見通し。
- 従業員数DIは▲15.2ポイントと、前回(▲1.8ポイント)から不足傾向が強まる。「従業員が不足」と回答した企業の割合が前回調査の2倍弱に増加。来期も▲20.4ポイントと労働力等の不足状況が継続すると予測。



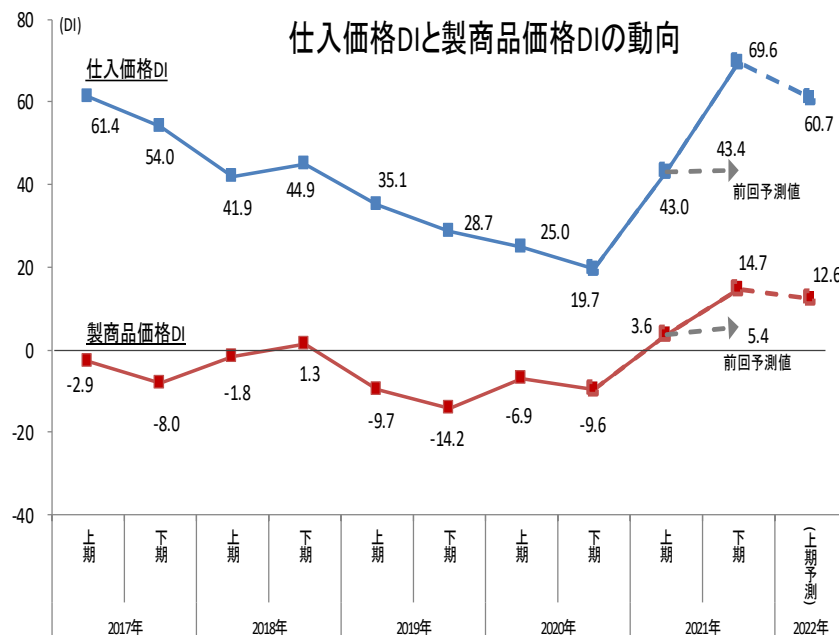
注: 資金繰りDI = (「楽」とした企業数 - 「苦しい」とした企業数) / (回答企業数) * 100



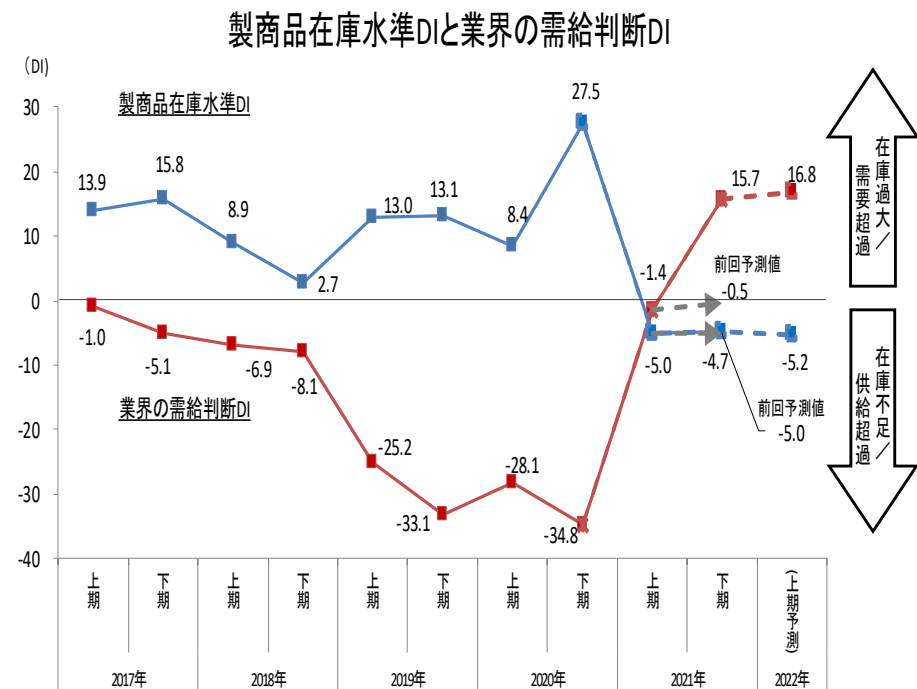
注: 従業員数DI = (「過剰」とした企業数 - 「不足」とした企業数) / (回答企業数) * 100

3. 製造事業者の景況

- 仕入価格DI及び製商品価格DIは前回横這い予測に対してそれぞれ上昇。仕入価格DIは2期連続20ポイント以上の上昇。製商品価格DIは前回の約10ポイント増の+14.7ポイントで、2期連続プラスとなった。一方、来期は共に下落を予想。
- 製商品在庫水準DIは、前回予測通り若干の在庫不足で横這い推移。業界の需給判断DIは、前回横這い予測に反して17.1ポイント上昇の+15.7ポイントとプラスに転じ、需要超過の状況が鮮明化。来期も引き続き需要超過状態が見込まれる。



注(1): 仕入価格DI = (「上昇」とした企業数 - 「下落」とした企業数) / (回答企業数) * 100
 注(2): 製商品価格DI = (「上昇」とした企業数 - 「下落」とした企業数) / (回答企業数) * 100

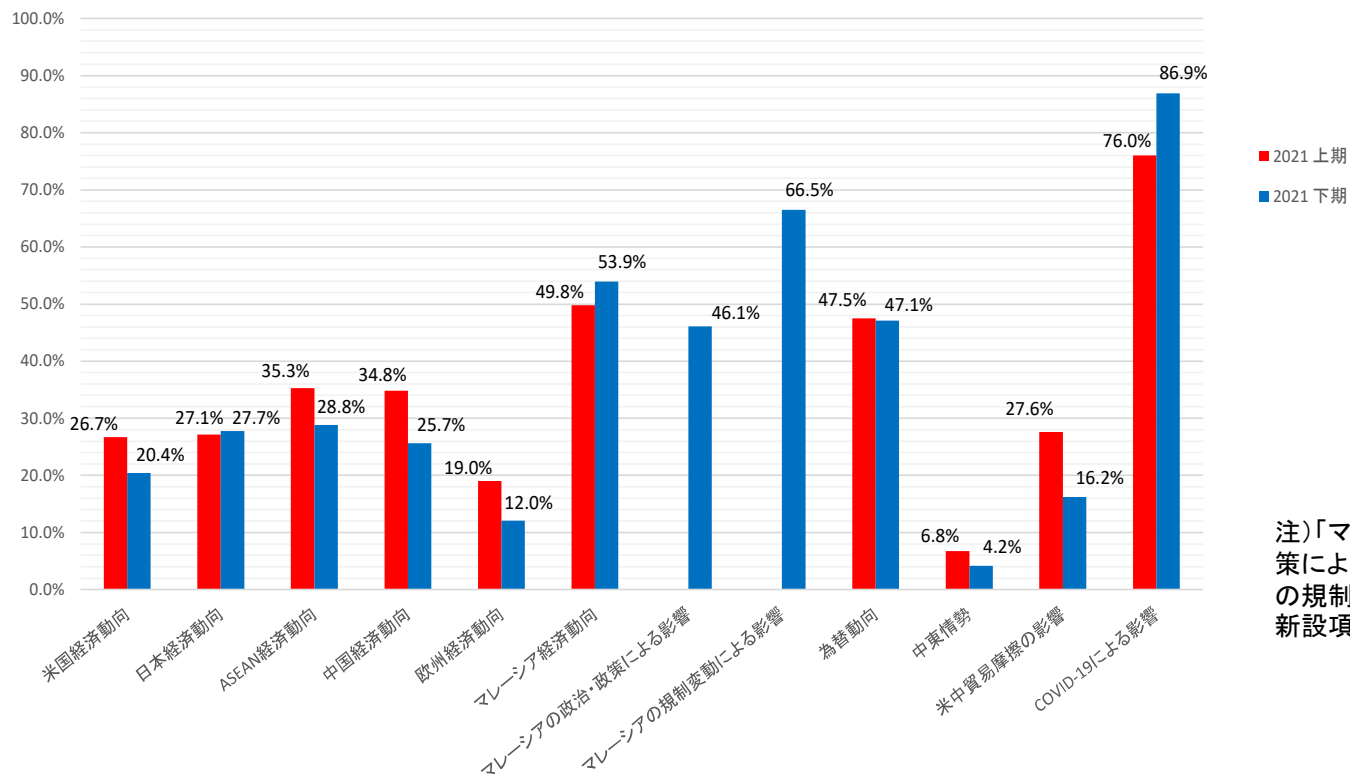


注(1): 製商品在庫水準DI = (「過大」とした企業数 - 「不足」とした企業数) / (回答企業数) * 100
 注(2): 業界の需給判断DI = (「需要超過」とした企業数 - 「供給超過」とした企業数) / (回答企業数) * 100

4. 業績に影響を与える要因

- COVID-19の影響をあげる回答が約9割まで上昇し、引き続き最大の要因。次いで、マレーシアの規制変動も、業績に大きな影響を与えているとの結果。
- マレーシアの政治・政策、経済動向、為替動向は、それぞれ約半数の企業が業績への影響が大きいと指摘。一方、米国、欧州、ASEAN、中国の経済動向や米中貿易摩擦等他国の経済動向による影響との回答は減少を示している。

業績に特に影響を与える因子



注)「マレーシアの政治・政策による影響」と「マレーシアの規制変動による影響」は新設項目。